DJ-P114R セットモードについて

DJ-P114R 特定小電力中継器は、各種機能を用途に合わせてより使いやすくするためにカスタマイズすることができます。本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない、中継器・無線機の基本設定の詳細をご説明します。

*文中のローマ字はディスプレイの表示、「設定値」は変更や設定ができる内容、「初期値」は出荷時の設定です。

セットモードの操作

・キーロックがかかっていればかけたときと同じ操作で解除（通常の簡易ロックはFUNC長押し）します。
・[FUNC]キーを押したまま[SET]キーを押すとローマ字表示が出て、[SET]キーを押すごとにメニュー項目が切り替わります。ローマ字表示に変わったら指を離しても構いません。FUNCキーだけを必要以上に長く押しているとキーロックが掛かるのでご注意ください。(同じ長押しで解除できます)
・[▽][△]キーでメニュー内の設定値を選択します。
・[SET]キーを押すと今の設定値を保持して次のメニュー、[FUNC]キーを押すと前のメニューが選べます。
・設定が済んだら[PTT]キーを押します。すべての設定値を更新して運用画面に戻ります。機能によってはオン状態を示すアイコンが表示されます。

中継器セットモード一覧

中継器モード(通話モードr1)時にカスタマイズできる項目です。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値
1	中継親機チャンネル周波数帯	b rPt-CH	b/A	b
2	中継アラーム	oFF ALm	oFF/on	oFF
3	中継ハングアップ	0 HunGuP	0/05/1/2	0
4	中継自動接続手順	on2 Auto	oFF/on1/on2	on2

無線機セットモード一覧

無線機モード(通話モード1、5、7、8)時にカスタマイズできる項目です。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値
1	中継子機チャンネル周波数帯	A Unt-CH	A/b	A
2	コンパンダー	oFF ComPnd	oFF/on	oFF
3	秘話	oFF ScrbLE	oFF/on	oFF
4	ベル	oFF bEEL	oFF/on	oFF
5	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5
6	LED	on LEd	oFF/on	on
7	PTTホールド	oFF PttHLd	oFF/on	oFF
8	送信出力	Pow-Hi	Hi/Lo	Hi
9	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF
10	操作音量	3 Sd-voL	0～5	3
11	サウンド	on Sound	oFF/on	on
12	エンドピー	oFF EndP	oFF/on/PP	oFF
13	PTTオフ	on Ptt	oFF/on	on
14	コールバック	oFF CALLb	oFF/on	oFF
15	SETキー割り当て	ACH SEt-bt	ACH/bCH/EG/Scn	ACH
16	外部音量変更	EvoL-L	L/H	L

中継器セットモード

1: 中継親機チャンネル周波数帯「rPt-CH」
設定値 b / A（初期値 b）

半複信中継器(通話モード r1)のときに送受信する周波数帯を入れ替えます。無線のことをよく知る管理者が、混信を減らすような特定の目的をもって変更するためのものです。弊社製の中継器、トランシーバーを通常設定でお使いになるときは変更しないでください。標準で自動的に適切な組み合わせになります。弊社製品の中にはこの変更に対応できない機種もあります。

A に変更すると半複信中継器のとき、ディスプレイ左上の「r1b」 表示が「r1A」表示になります。使用する子機の周波数帯設定は全てｂ側にします。あまり必要性が無いので、弊社製の機種の多くはこの変更に対応させていません。

2: 中継アラーム「ALm」
設定値 oFF / on（初期値 oFF）

半複信中継器(通話モード r1)で中継動作の終了をアラーム音でお知らせします。アラーム音が鳴っている間に信号を受信すると中継動作を継続します。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、通話がスムーズに感じられる反面、音が煩わしく感じられることもあり、実験してから好みに合わせて設定してください。

3: 中継ハングアップ「HunGuP」
設定値 0 / 0.5 / 1 / 2 秒（初期値 0）

半複信中継器(通話モード r1)で受信信号が途切れても一定時間送信を継続する機能です。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、スムーズに感じられることがあります。実験してから好みに合わせて設定してください。

4: 中継自動接続手順「Auto」
設定値 oFF / on1 / on2（初期値 on2）

半複信中継器(通話モード r1)、半複信中継子機(通話モード 5)で中継動作自動接続手順（Auto Kerchunk）を解除する機能です。接続タイミングの異なる旧製品や他社製中継器へのアクセスに有効な場合があります。通常は初期状態の「on2」でお使いください。

無線機セットモード

1: 中継子機チャンネル周波数帯「Unt-CH」
設定値 A / b（初期値 A）

半複信中継器(通話モード r1)のときに送受信する周波数帯を入れ替えます。無線のことをよく知る管理者が、混信を減らすような特定の目的をもって変更するためのものです。弊社製の中継器、トランシーバーを通常設定でお使いになるときは変更しないでください。標準で自動的に適切な組み合わせになります。弊社製品の中にはこの変更に対応できない機種もあります。

b に変更すると半複信中継器のとき、ディスプレイ左上の「５A」 表示が「5b」表示になります。使用する中継器の周波数帯設定は A 側にします。あまり必要性が無いので、弊社製のトランシーバーの多くはこの変更に対応させていません。

2: コンパンダー機能「CmP」
設定値 oFF / on（初期値 oFF）　※ON 時のアイコン：「♫」

コンパンダー機能を ON に設定すると、通話中、音声が無いときに「サー」と聞こえるかすかなバックノイズを低減することができます。

※コンパンダー機能のないトランシーバーと通話する場合には必ずOFF にしてください。逆に音質が悪くなることがあります。

※他社製の特定小電力トランシーバーでもコンパンダー対応機であればON でお使いになれます。

※中継通話で子機のコンパンダーを ON にしていた場合、中継器のコンパンダーは OFF でも子機間の通話は問題ありませんが、DJ-P114R を「割り込み送信」させるようなときは音質が悪くなることがあるため、子機と本機の中継時のコンパンダー設定は同じにしてください。

3: 秘話機能「ScrbLE」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）※ON 時の表示 :「秘話」

ON にすると、設定していないトランシーバーで受信したときに「モガモガ」と濁った音になり、通話内容が聴き取れなくなります。同じ機能（スクランブルとも言います）を搭載した弊社製トランシーバーであれば、機種が違っても通話できます。

※本機能のセキュリティレベルは非常に低いものです。秘密の通信に使えるレベルのものではありません。秘話設定の声に違和感があるときは、拡張セットモードで秘話周波数設定が変更されている可能性があります。拡張セットモードの説明は本書と同じダウンロードコーナーでご覧になれます。

※弊社の旧機種や他社製品の秘話と混用した時は通話内容が聞き取りづらくなったり使えなくなったりすることがあります。

※中継通話、グループトークでもお使いになれますが、音質が変わることがあります。

※中継通話で子機の秘話を ON にしていた場合、中継器の秘話設定は OFF でも子機間の通話は問題ありません。DJ-P114R を「割り込み送信」させるときは音質劣化が起きないよう、親・子機全てに同じ秘話を設定してください。

4: ベル機能「bELL」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）※ON 時のアイコン :「🔔」

呼び出されたことをベルアイコン表示とベル音でお知らせします。

※着信すると 10 秒間ベル音が鳴ります。何かキー操作をすると止まります。キー操作するまでベルアイコンが点滅して、着信があったことをお知らせします。

※一度お知らせしたら、待ち受け状態が約 10 秒以上続くまで動作しません。（てきぱき通話している間はベルがいちいち鳴ると通話の邪魔になります。）

※グループトーク設定時は、グループ番号が合わない信号を受信しても動作しません。

5: 液晶ランプ機能「LAmP」

設定値 oFF / 5 秒 / on（初期値 5 秒）

液晶ディスプレイの照明を点灯させる機能です。初期状態では「5」秒に設定されており、キー操作（[PTT]キー以外）をすると自動的に 5 秒間照明が点灯します。

※ディスプレイ照明を ON（常時点灯）に設定すると、オプションバッテリー使用時のバッテリーの消耗がとても早くなります。AC アダプター使用時以外は ON にしないでください。

6: LED ランプ機能「LEd」

設定値 oFF / on（初期値 ON）

動作状態を表示する LED ランプ（青色 : 待ち受け、緑色 : 受信、赤色 : 送信）の ON/OFF を選択できます。無線機と中継器モード両方に反映されます。

OFF にするとわずかに電池の持ちは良くなりますが、液晶の照明をオフにするような効果はありません。設定が済んだら見なくて良いので中継器モードではオフにしても良いですが、トランシーバーとして使うときや設定を変更するときは点灯するほうが便利です。

7: PTT ホールド機能「PttHLd」

設定値 oFF / on / （初期値 oFF）

[PTT]キーを一度押すと送信状態を保持、もう一度[PTT]キーを押すと受信状態になります。送信中[PTT]キーを押さなくて良いハンズフリー状態にできます。一部のイヤホンマイク・ヘッドセット系アクセサリーで[PTT]キーロック機能が無いものをお使いになるときにロック代わりに使うこともできます。

※PTT ホールド機能は一部のオプションマイクではお使いになれません。取扱説明書のオプション一覧表をご覧ください。

8: 送信出力設定「PwL」

設定値 Hi / Lo（初期値 Hi）※Lo 時のアイコン：「.（ドット）」
送信出力を変更できます。

Hi ： 10mW 出力
通常の設定です。理由が無い限り変えないでください。設定を変えてもバッテリーの持ちは大きく変わりません。

Lo ： 1mW 出力
b12〜b29 チャンネルでは 3 分タイムアウトの制限を受けず、連続送信ができるようになります。ガイドシステムのような送信し続ける必要が有る用途向けですが、通話距離は数十メートル程度まで狭くなります。他人に通話を聞かれるリスクが低くなるので、常に至近距離で通話するときにもメリットがあります。

9: VOX 機能「vo」

設定値 oFF / Lo / Hi（初期値 oFF）※ON 時のアイコン：「☆」

「話すと送信、黙ると受信」のハンズフリー通話ができます。

Lo ： VOX 感度 小（大きめの声でないと送信しません。周りがうるさく、黙っていても送信してしまうようなときにお試しください）

Hi ： VOX 感度 大（小さめの声でも送信します。周りが比較的静かなときはこちらをお試しください）

※弊社純正品でも一部のオプションマイクは対応しません。取扱説明書のオプション一覧表をご覧ください。

※VOX 感度を「Lo」に設定しても送信してしまうような騒音の大きい場所では VOX 機能はお使いになれません。

※声を感知してから送信を始めるまでに多少時間がかかるため、音声の始めが途切れて聞こえる場合があります。「了解です、〜〜〜」「はい、〜〜〜」など、用件に入るまでに頭切れしても差し支えない言葉を挟んで話し始めると通話しやすくなります。

10: 操作音量「Sd-voL」

設定値 0 〜 5（初期値 3）

本体から鳴る操作音の音量を変更することができます。数値を大きくすると音量が大きくなり、「0」に設定するとすべての操作音（キー操作音、各種アラーム音、ベル音など）が鳴らなくなります。

※イヤホンを使用した状態でビープ音量を 5 に設定すると、大きな音で耳を痛める可能性がありますのでご注意ください。

11: サウンド「Sound」

設定値 oFF / on（初期値 on）

本体操作時のビープ音やアラーム音を鳴らないようにできます。

12: エンドピー機能「EndP」

設定値 oFF / on / PP（初期値 oFF）

エンドピーは送信が終わったことをビープ音で相手に伝える機能です。受信信号の強度(レベル)に合わせてエンドピーを鳴らす「エンドピピ」機能はアルインコの特許で、テールノイズキャンセラーまたはグループトークを設定した弊社製トランシーバーからの信号のみ動作を保証しています。

ON ： エンドピー

PTT キーを離したときに「ピッ」と鳴って送信が終わったことを相手に伝えます。「エンドピー」は送信側で鳴るので、他人に音を聞かせたくないときは自分の設定をオフにします。

PP ： エンドピピ

受信終了時に、強いレベルの信号を受信したときは「ピッ」、少し弱いレベルの信号を受信したときは「ピピッ」、非常に弱いレベルの信号を受信したときは「ピピピッ」と鳴ります。「エンドピピ」は受信側で鳴るので、自分がピピ音を聞きたくないときは設定をオフにします。

13: PTT オン／オフ機能「Ptt」

設定値 oFF / on（初期値 on）

送信を禁止する機能です。OFF に設定後 PTT キーを押すと【Ptt oFF】と表示され、送信できなくなります。ユーザーグループの中に「連絡を聞くだけで、返事はしなくてよい」メンバーがいるとき等に使います。

メモ）この「ラジオ」のような無線機は無線通信の用語で「受令機」と呼ばれています。

14: コールバック機能「CALLb」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）

コールバック機能を ON に設定すると、イヤホン（イヤホンマイク）使用時に送信中の自分の声をモニターすることができます。「話したつもりだったが、送信できていなかった」といった[PTT]キーの操作ミスを防げます。

※DJ-P114R 本体内蔵のマイクやスピーカーマイクではハウリングを起こすので使えません。

15: SET キー割り当て「SEt-bt」

設定値 ACH / bCH / EG / Scn（初期値 ACH）

[SET]キーを長押ししたときの動作を選択することができます。長押ししたときの動作だけを変更するため、1 回押しや押しながら起動したときの動作は変わりません。

ACH ： デュアルオペレーション(モード 7)のときの A(メイン)チャンネルを登録します。
bCH ： デュアルオペレーション(モード 7)のときの b(サブ)チャンネルを登録します。
EG ： 緊急通報を使うときに選択します。
Scn ： チャンネルスキャンを使うときに選択します。

※[SET]キーを長押ししたときの動作内容は「DJ-P114R_補足説明書」で詳しく説明しています。

※[SET]キーを長押ししたときの動作が有効になる通話モード：

「EG」：モード 1/モード 5/モード 7
「ACH」「bCH」「Scn」：モード 1/モード 5

16: 外部音量変更「EvoL」

設定値 L / H（初期値 L）

外部出力端子へスピーカーマイクなどを接続するとき、H 設定にすると音量を上げることができます。

イヤホンやイヤホンマイクでボリュームを上げすぎると耳を傷めることがあるので切り替えられるようになっています。初期値はイヤホン用のＬ（小さい音量）です。

※イヤホン、ヘッドセットを使用した状態でのボリューム変更には十分にご注意ください。
この項目を変更して音量を上げると、大きな音で耳を痛める可能性がありますのでご注意ください。

以上

アルインコ(株) 電子事業部

DJ-P114R セットモードの拡張について

　DJ-P114R 特定小電力中継器には、環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を「拡張セットモード」に採用しています。一度設定したら変えることが少なく、「故障かな？」と思うような動作をしたりする項目もあるので、敢えて通常のセットモードの操作とは別にしてご説明します。
内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、操作方法は敢えて最後に記載しました。
　管理者が行った設定をユーザーが知らずにリセットするリスクを減らすため、これら拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、通常のリセット操作では初期化されないようになっています。

全セットモード一覧

　拡張操作をすると、すべての通話モードですべてのセットモード項目が操作できるようになります。メニュー番号 1～20 までは通常セットモードです。ここでは説明していません。通常セットモードの詳細は別紙「DJ-P114R セットモード詳細説明書」をご参照ください。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値	種類	詳細内容
1	中継親機チャンネル周波数帯	b rPt-CH	b/A	b	通常 セットモード （中継器）	セットモード 説明書
2	中継アラーム	oFF ALm	oFF/on	oFF		
3	中継ハングアップ	0 HunGuP	0/05/1/2	0		
4	中継自動接続手順	on2 Auto	oFF/on1/on2	on2		
5	中継子機チャンネル周波数帯	A Unt-CH	A/b	A	通常 セットモード （無線機）	
6	コンパンダー	oFF ComPnd	oFF/on	oFF		
7	秘話	oFF ScrbLE	oFF/on	oFF		
8	ベル	oFF bEEL	oFF/on	oFF		
9	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5		
10	LED	on LEd	oFF/on	on		
11	PTT ホールド	oFF PttHLd	oFF/on	oFF		
12	送信出力	Pow-Hi	Hi/Lo	Hi		
13	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF		
14	操作音量	3 Sd-voL	0～5	3		
15	サウンド	on Sound	oFF/on	on		
16	エンドピー	oFF EndP	oFF/on/PP	oFF		
17	PTT オフ	on Ptt	oFF/on	on		
18	コールバック	oFF CALLb	oFF/on	oFF		
19	SET キー割り当て	ACH SEt-bt	ACH/bCH/EG/Scn	ACH		
20	外部音量変更	EvoL-L	L/H	L		
21	中継器バッテリーセーブ	oFF rPt-bS	oFF/on	oFF	拡張 セットモード	本書
22	中継器他社互換	50 rPt-ot	0～100	50		
23	スケルチレベル	SqL 3	0～5	3		
24	キーロック時間	Loc 2	1～3	2		
25	電池電圧参照	○.○○	-	-		
26	マイクゲイン	4 m-GAin	1～7	4		
27	バッテリーセーブ	on bS	oFF/on	on		
28	デュアルオペレーション再開時間	5 dUAL-t	1～5(秒)	5		
29	オプション使用時の PTT/マイク設定	ALL micPTT	ALL/oUt/OFF/St1～St5/no	ALL		
30	オプション使用時のスピーカー設定	oUt SPKoPE	oUt/inS/ALL	oUt		
31	イヤホン断線検知	on EAr-C	oFF/on	on		
32	緊急警報鳴動時間	10 EmG-t	10～60	10		
33	秘話周波数	34 SCr-Fq	27～34(×0.1KHz)	34		
34	秘話エンファシス	on EmPHA	oFF/on	on		
35	グループ選択	ton GroUP	ton/Cd1/Cd2	ton		
36	減電池アラーム（アラーム間隔）	oFF bAtt-C	oFF/5～60(秒)	oFF		
37	VOX ディレイ時間	10 vod-t	1～30（×0.1sec）	10		
38	チャンネル表示	AL CHdiSP	AL/noL/oFF	AL		
39	グループトーク判別精度	2 mG-ton	1～5	2		
40	マイク AGC 切り替え	SL AGC	oFF/SL/FS	SL		
41	AGC ターゲットレベル調整	06 AGC-tG	03～24(×-1dB、 3dB Step)	6		
42	テールノイズキャンセル	on tAiLnC	oFF/on	on		
43	減電池スリープ	on bt-SLP	oFF/on	on		
44	特殊キーロック	oFF Loc-SP	oFF/on	oFF		

21: 中継器バッテリーセーブ「rPt-bS」
設定値 oFF / on (初期値 oFF)

半複信中継器(通話モード r1)の専用バッテリーセーブ機能です。中継動作の反応が遅くなり、頭切れの原因にもなるので通常は初期値の OFF でお使いください。電源の無い現場で仮設使用するなど、バッテリーの消費を極力抑えたいときだけ ON 設定をお試しください。

22: 中継器他社互換「rPt-ot」
設定値 0～100(初期値 50)

DJ-P114R の半複信中継器(通話モード r1)を中継器として使うとき、旧製品や他社製品ではうまく中継動作をしない場合があります。アクセス手順のタイミングが原因の場合、この設定を変えると改善することがあります。通常セットモードの「No.4 中継接続自動手順」と合わせてお試しください。初期設定以外のタイミングにすると、本機や弊社製の現行機種のアクセスが不安定になります。すべての中継障害に有効な設定ではなく、動作保証をするものでもありません。

23: スケルチレベル「SqL」
設定値 0～5 (初期値 3)

FM 電波特有の、通話が無いときに聞こえる「ザー音」(ホワイトノイズ) を消す「スケルチ」の調整です。工場で標準的なレベルに調整してありますが、ノイズが強い環境などで、通話していない時にカサカサと音が出る場合にレベルを上げます。上げ過ぎると弱い信号も消してしまうため、通話距離が短くなったと感じられることがあります。逆にノイズが低い環境では、レベルを低めに設定することで弱めの信号でも受信しやすくなる場合があります。レベルをゼロにすると、常に「ザー」というノイズが聞こえるようになります。
参考) グループトーク機能設定時はレベルをゼロにしてもホワイトノイズは聞こえません。「ノイズ対策にもなる」とグループトークをお使いいただくよう強く推奨しているのはこのためです。

24: キーロックするまでの時間「Loc」
設定値 1～3 秒 (初期値 2 秒)

指定のキーを 2 秒押すとキーロックが掛かりますが、このタイミングを 1～3 秒の間で変更できます。

※キーロックは[FUNC]キー長押しの「簡易」と、[FUNC]と[SET] キー長押しの「通常」の 2 種類があります。

25: 電池電圧表示「(数字)」

お使いのバッテリーパックのおよその電圧を常に数字で表示します。バッテリーが弱ってきたときの数字を覚えておけば、バッテリー残量の詳しい目安になります。(テスターのような精度ではありません、あくまで目安の数値です。) バッテリーが入っていないときは「no bAtt」、充電中は「CHArGE」、充電が完了すると「FuLL」が表示されます。

※電圧以外の表示が更新されるまで、最長約 10 秒かかる場合があります。

※待ち受け時の充電中、充電完了、バッテリー残量の表示は下記をご参照ください。弊社の従来製品とは異なる表示になっています。
充電中 : ディスプレイ右上の電池マーク : 点滅 / LED ランプ : (待ち受け時に) 青色点灯
充電完了 : 電池マーク 点灯 / LED ランプ 青色点灯
バッテリーで駆動中 : 電池マーク 点灯 / LED ランプ 青色点灯
バッテリー残量低下 : 電池マーク 点灯 / LED ランプ 青色点滅
バッテリー無し : 電池マーク 消灯 / LED ランプ 青色点灯

26: マイクゲイン調整「m-GAin」
設定値 1～7 (初期値 4)

通話時のくせ (声量、マイクと口の間の距離…) やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る声量は異なります。このため、音が小さい (話す声が小さい＝レベルを大きくする)、音が歪む (声が大きい＝レベルを小さくする) 等が調整できます。適当に設定するとかえって音が悪くなるので、しっかり通話テストをしてからお使いください。

27: バッテリーセーブ「bS」
設定値 oFF / on (初期値 on)

一部の無線機モード(モード 1、5)でのバッテリー消費を最小にするバッテリーセーブ機能は、僅かですが通話の始めの部分が途切れる原因の一つになります。これを少しでも軽減する必要がある特殊用途向けに設けた項目です。バッテリーの消費が早くなるため、通常の用途では変更しないでください。

28: デュアルオペレーション再開時間「dUAL-t」
設定値 1~5 (初期値 5 秒)

デュアルオペレーションモードで通話が終了したあと、交互受信（スキャン）を再開するまでの時間です。初期値は 5 秒ですが、運用の仕方によっては早い方が便利な時もあります。ニーズに合わせて変更してください。

29: オプション使用時の PTT/マイク選択「micPtt」
設定値 ALL／oUt／oFF／St1～St5／no (初期値 ALL)

オプションのイヤホンマイク、スピーカーマイク、ヘッドセットの使用時、本体とオプションの[PTT]キーを押したときに、どのマイクを有効にするか選択できます。運用スタイルに合わせて変更してください。「ALL」「oUt」「oFF」は弊社製 4 極 1 軸ねじ込みプラグを採用するトランシーバーと同じ動作です。

設定値	本体の[PTT] キーを押した時に有効なマイク	オプションの[PTT] キーを押した時に有効なマイク
ALL	本体とオプション両方	オプションのみ
oUt	オプションのみ	オプションのみ
oFF	送信しません	オプションのみ
St1	送信しません	本体とオプション両方
St2	オプションのみ	送信しません
St3	本体とオプション両方	送信しません
St4	本体とオプション両方	本体とオプション両方
St5	オプションのみ	本体とオプション両方
no	送信しません	送信しません

【重要：スピーカーマイク使用時の制限】※仕様上の理由で、改造はできません。異常ではありません。
1：スピーカーマイク使用時、本体の PTT キーを押しても電波が送信されるだけで、スピーカーマイクに向かって話す声は送信されません。設定項目に関わらず、スピーカーマイクの PTT を押して話してください。
2：PTT ホールドは使えません。どちらの PTT キーを押してもスピーカーマイクのマイクは動作しません。

30: オプション使用時のスピーカー選択「SPKoPE」
設定値 oUt／ins／ALL (初期値 oUt)

別売のイヤホンやスピーカーマイク等を接続して使用する際に、本体やオプションのスピーカー、イヤホンの有効／無効を選択できます。運用スタイルに合わせて変更してください。「oUt」は弊社製 4 極 1 軸ねじ込みプラグを採用するトランシーバーと同じ動作になります。

設定値	オプション使用時の動作するスピーカー（イヤホン）	備考
oUt	オプションのスピーカー（イヤホン）のみ動作	弊社製の 4 極 1 軸ねじ込み式のトランシーバーと同じ動作
ins	本体の内蔵のスピーカーのみ動作	
ALL	両方のスピーカー（イヤホン）が動作	

ご注意：
・[ALL]設定にすると、仕様上の理由で初期設定より大きい音が鳴ります。大きな音で耳を痛める可能性がありますので十分にご注意ください。特にイヤホン使用時、音量の上げすぎにご注意ください。

31: イヤホン断線検知「EAr-C」
設定値 oFF / on (初期値 on)

本体に接続したイヤホンやイヤホンマイクのケーブル断線を検知する機能です。ON に設定すると起動時に検知動作を行い、断線していると判断すれば 10 秒間、［EAr-nG］表示と内蔵スピーカーのアラーム音でお知らせします。

32: 緊急通報時間「EmG-t」
設定値 10～60（初期値 10 秒）

緊急通報のアラーム鳴動時間と送信時間は 10 秒に初期設定されていますが、10 秒単位（最大 60 秒）で長くできます。

33: 秘話通信周波数「Scr-Fq」
設定値 27～34（初期値 34：3.4KHｚ）

秘話設定のコード（正確には周波数ですが）を変えて、異なる秘話グループを作れます。変更するときは、通話したいグループ全員の設定を同じに揃えてください。

34: 秘話エンファシス「EmPHA」
設定値 oFF / on（初期値 on）

弊社製、他社製に限らず特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えると改善される場合がありますが、動作を保証するものではありません。通常は初期値でお使いください。

35: グループトークの種類切り替え「GrouP」
設定値 ton／Cd1／Cd2（初期値 ton）

本機のグループトークは一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えを Cd1、Cd2 に設定し、通常のトーンスケルチと同様に通常画面で[SET]キーを押すことで DCS 番号を設定することができます。番号変更の操作はトーンスケルチと同様に、[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押します。通話グループ全員に同じ設定をします。

Cd1:01～83 の 83 通りのコード番号から選択できます。運用時はチャンネルと 2 桁の DCS 番号を表示します。

Cd2：Cd017～Cd754 の 108 通りのコードから選択できます。運用時はチャンネルと Cd を表示、[FUNC]キーを短く押すと Cd と 3 桁の DCS 番号を確認できます。[FUNC]キーを長く押しているとキーロック操作になるのでご注意ください。

※DCS の設定が有効な通話モードは通話モード r1、1、5、7 です。それ以外のモードでは決められたチャンネルグループで動作するため設定することはできません。また、半複信中継子機(通話モード 5)のときのリモコン設定で DCS を設定していると正常にリモコン動作できません。DCS を設定して中継動作するには、対応中継器本体を操作してください。

36: 減電池アラーム時間「bAtt-C」
設定値 oFF / 5～60 秒（初期値 oFF）

LED ランプの減電池表示（青色点滅）とともに設定時間ごとに 1 回、バッテリーが減っていることをアラーム音でもお知らせできます。音を鳴らす電力が消費されるため、アラーム間隔を短く設定するほど早くバッテリーが切れます。

37: VOX 送信持続時間「vod-t」
設定値 01～30（初期値 10：1.0 秒）

VOX で送信したとき、音声が途切れても初期値では 1 秒間送信状態を保持するので、短い息継ぎをしても途切れません。この時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、黙るとすぐ送信が落ちることもあり、十分に動作確認をしてからお使いください。

38: チャンネル表示変更・非表示「CHdiSP」
設定値 AL / noL / oFF（初期値 AL）

弊社製品のチャンネル表示は L01～L09、b01～b11 です。チャンネル表示設定を noL に変更することで 01～20 表示に変更することができます。他社製で、これに近い表示をしている機種のチャンネルに合わせやすくします。

AL	noL
b01～b11	01～11
L01～L09	12～20
b12～b29（中継）	01～18（中継）
L10～L18（中継）	19～27（中継）

OFF を選ぶとチャンネルを非表示（－－－－－－）にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。
再設定する場合はチャンネル表示を AL または noL にしてください。

39: グループトーク判別精度「mG-ton」
設定値 1～5（初期値 2）

・他社製や弊社製の旧型機と混用すると、グループトークができないことあります。最新の部品を採用する本機はグループトーク信号の読み取り精度が非常にシビアで、少しでもズレた信号には反応しないことから起こる「相性問題」です。
・この設定を変更する前に、相性問題が起きにくい 10 番～37 番の間で全体が動作するグループトーク番号を探してみてください。どうしても上手くいかないときだけ、判定精度をわざと甘くするこの項目をお試しください。1 が最も厳しく、5 が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、テールノイズキャンセル機能も働かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の 2 は、かなりシビアに判定します。

40: マイク AGC 切り替え「AGC」
設定値 oFF / SL / FS（初期値 SL）

マイクに大きな声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。この歪みを緩和するのが AGC（自動ゲイン調整）で、大きな声を検知したときにゆっくり緩和させる低速「SL」と瞬時に緩和させる高速「FS」の 2 種類から選べます。他社製や旧機種と混用する場合、通話品質の相性問題を解決できることがありますが、逆に音が悪くなることもあります。複数の機種が混在するときは全部の機種で音質を確認してください。

41: AGC ターゲットレベル調整「AGC-tG」
設定値 03～24（初期値 06）

マイク AGC 設定を入れたときに、歪みを緩和させる音量のポイントを調整することができます。
設定する数値を小さくすることで、より大きい声のときの歪みを緩和させます。逆に数値を大きくすると小さい声の歪みを緩和することができますが、相手に自分の声が小さく聞こえます。これも前項同様、受信側の機種との相性も含めて、下手にいじると逆に送信音を悪くすることがあるので必ず実験してからご使用ください。

42: テールノイズキャンセル「tAiLnC」
設定値 oFF / on（初期値 on）

グループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信から待ち受けになるときの「ザ！」という短いノイズ音）を除去する「テールノイズキャンセル機能」のオンオフです。
テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方が有効なときのみ動作するので、この機能が入っていない無線機と通話すると設定にかかわらずテールノイズは聞こえてしまいます。弊社製の対応機種どうしで使う場合、初期値を変える必要はありません。

43: 減電池スリープ「bt-SLP」
設定値 oFF / on（初期値 on）

バッテリーパック使用時、適正な充電をしないと起きる過放電はバッテリーパックの劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐためバッテリーの電圧が一定レベルまで低下すると、初期値の ON では自動的にスリープ（省電力状態）に切り替わります。OFF にするとバッテリーを最後まで使い切ることができますが、大きな差ではありません。特殊な理由が無ければ ON でお使いください。

※いずれの設定でも待機電流は発生するので、充電できる環境になったらすぐに充電してください。
　バッテリーパックを使わないときは本体から取りだして、涼しい乾いた直射日光が当たらない場所に保管してください。満充電でも放電でもない、５０％程度が保存に理想的な充電状態です。

44: 特殊キーロック「Loc-SP」
設定値 OFF／ON（初期値 oFF）

DJ-P114R は中継器モードでも受信音声のボリュームが変更でき、[PTT]キーで送信することができます。
これらの機能を使わず、第三者が触れられるような環境に設置するときは、この項目で特殊キーロックを掛け、キーロック解除以外の操作を禁止しておくことをお勧めします。受信音量や[PTT]操作はできなくなります。

　この設定を ON にすると、 [SET]キーと[FUNC]キーの両方を長押しする通常キーロックが「LoC-2」から

「LoC-SP」に変わり、特殊キーロックが有効になります。同じ操作でキーロックを解除できます。

※この設定と同時に、拡張セットモードの「No.24 キーロック時間」を長くすることで、一層いたずらや誤操作を防ぐことができます。

[セットモード拡張方法]

1：キーロックを掛けます。(2 つあるうちの、どちらの方法でも構いません。)
2：[SET]キーを 5 回連続で押します。10 秒以内に 5 回押さないと有効になりません。
　キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープ音が鳴ります。
3：自動的にキーロックが解除されます。
4：セットモードに入るとすべてのメニューが追加されています。通常のセットモードと同様に操作します。
＊上記 1～4 の操作を繰り返すと、変更した値を保存して拡張メニューを隠すことができます。

[拡張項目のリセット]

＊ チャンネルや通常のセットモードも含んで、全てを工場出荷状態まで初期化するには、アダプターを抜いて電源を切った後[▽]、[△]、[FUNC]キーの 3 つ全てを押したままでアダプターを差し込んで電源を入れます。画面が全点灯したら指を離します。「r1b L10」で起動したら工場出荷状態です。

＊ 説明書に記載のリセット（FUNC キーを押しながら電源を入れる）では拡張セットモードは閉じず、設定した値も初期化されません。拡張セットモード以外の設定だけが工場出荷状態に戻ります。

以上

アルインコ（株）電子事業部

DJ-P114R 補足説明書

DJ-P114R 特定小電力中継器は中継器機能以外にトランシーバーとしても使用できる多彩な通話モードを搭載しています。本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない通話モードの詳細について説明します。

●トランシーバーの通話モード一覧と設定方法

① トランシーバーモードにする

・付属品の AC アダプターを AC100V のコンセントに接続します。まだ本機にはプラグは接続しません。
・[SET]キーを押したままで AC アダプターのプラグを本機に接続すると、ディスプレイに「SEt t-modE」が表示され、ディスプレイ左側のモード番号表示が点滅します。この表示が出たらすぐに指を離してください。押し続けたままにすると、ACSH モード（付属取扱説明書の記載機能）が動作します。

② 通話モードを選ぶ / 共通 :「使用するチャンネル」は選択したモードに合うものが自動で設定されます。

[▽]または[△]キーを押して通話モードを選択します。

通話モード	使用するチャンネル	モード番号表示	参照する取扱説明書
半複信中継器	L10～L18、b12～b29	r1	製品に同梱
交互通話	L01～L09、b01～b11	1	本書
半複信中継子機と中継器リモコン操作	L10～L18、b12～b29	5	本書
デュアルオペレーション	L01～L09、b01～b11 L10～L18、b12～b29	7	本書
最適チャンネルサーチ	L01～L09、b01～b11 L10～L18、b12～b29	8	本書

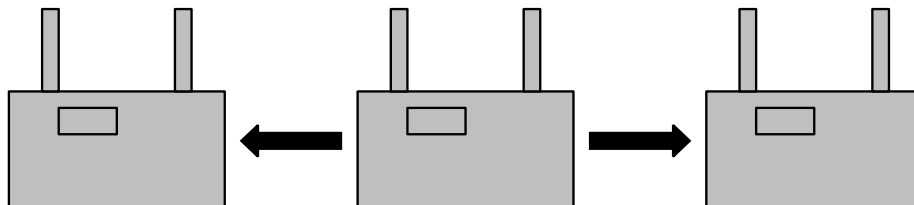
③選択したモードを確定する

・[PTT]キーを押すと、ピ！と設定音が鳴り、左側の表示が点灯に変わります。
・通話モードを変更するときは、AC アダプターのプラグを抜いて、上記①から繰り返し操作します。
電源を切っても（アダプターや電池を抜く）、次回に電源が入るとこの通話モードで起動します。

●各通話モードの操作方法

通話モードを確定してからの操作方法です。一部記述を省略していますが、ランプの点灯色は共通で、青がスタンバイ（待ち受け）、緑が受信中、赤が送信中です。

①交互通話

トランシーバーではもっとも基本的な通話モードです。チャンネルとグループトーク番号が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも通話できます。電波が届く範囲に居れば、一人の話し声を何人でも聞くことができます。

チャンネルとグループ番号を合わせる

チャンネル番号とグループトーク番号は、ユーザー全員が同じになるように合わせます。
・[SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押すとチャンネルが変わります。
・同じグループの人とだけ通話したいときはグループトーク機能も設定します。ノイズを聞こえにくくする効果も期待できます。 [SET]キーを１回押すとディスプレイ右側にグループ番号が表示され、機能がオンになります。もう一度押すとオフになり番号は消えます。
・グループ番号表示中に[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押してグループ番号を選びます。

他社機や、アルインコ製でも生産を終了しているような古いトランシーバーが混在するとき、番号は０２～３７番の中から選びます。それ以外ではグループ信号の読み取り精度の違いからくる相性問題で、通話できないことがあります。０１番は多用され、混信しやすいのでお勧めしません。

音量を調整する。

・ [▽]または[△]キーを押すと音量を 0 ～ 30 までの 31 段階で調整できます。
・ キーを押すごとにプ！とビープ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビープ音よりはるかに大きくなります。
・ [▽]と[△]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ、実際の音量が確認できます。本機の最大音量は３W と大きいため、大きなボリュームレベルでの確認時は耳を傷めないようご注意ください。
・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

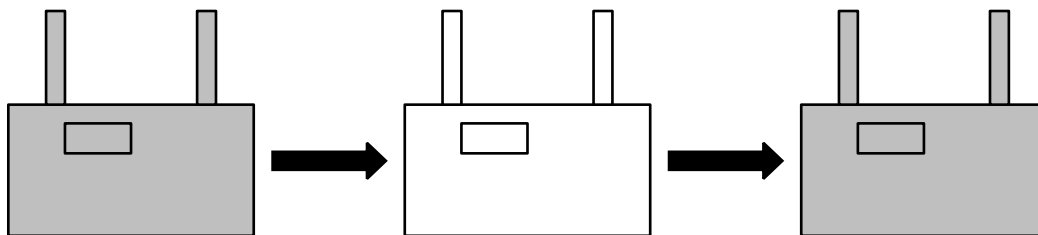
通話する。

信号を受信するとディスプレイの 受 が点灯し、スピーカーから相手の声が聞こえます。
送信するときは[PTT]キーを押したままマイクに向かって話します。送信中はディスプレイに 送 が点灯します。話し終わったら[PTT]キーを離します。マイクと口の間の距離は使用者の声量で変わるので、相手に聞いてもらい調節します。

コールトーン機能

送信中に[▽]キー、[△]キーのいずれか、または両方を押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、相手に注意喚起することができます。

②半複信中継子機と対応中継器のリモコンモード

半複信方式の中継器（DJ-P114R の出荷状態設定）にアクセスする子機の通話モードです。中継器を介することで、直接では電波が届かない相手と通話することができます。チャンネルやグループトーク番号 が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも中継通話できますが、他メーカー製や新旧の機種と混用すると相性問題で通話できないことがあります。またこのモードでプログラムした内容を、対応する弊社製中継器に転送して無線で設定変更ができるリモコンとしても使えます。

チャンネルとグループ番号を合わせる

チャンネル番号とグループトーク番号は、中継器と同じになるように合わせます。アルインコの中継器を基本設定で使用中は、５の後の A は変更しないでください。特殊な設定や他社製中継器などの場合、必要に応じてセットモードで B に変更できます。

・[SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押すとチャンネルが変わります。
・混信させないよう、中継器にはグループトーク機能が設定されていることがほとんどです。 [SET]キーを 1 回押すとディスプレイ右側にグループ番号が表示されグループトークが動作します。表示中に[FUNC]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押してグループ番号を選びます。他社機や、アルインコ製でも生産を終了しているような古いトランシーバーが混在するとき、グループトークに使われる信号の読み取り精度の違いからくる相性問題で通話できないことがあります。グループ番号を 02～37 番の間で変えて、全体が使える番号を探すと解決することがあります。01 番は多用されているので別の番号をお勧めします。
・もう一度[SET]キーを押すと機能がオフになり、番号は消えます。

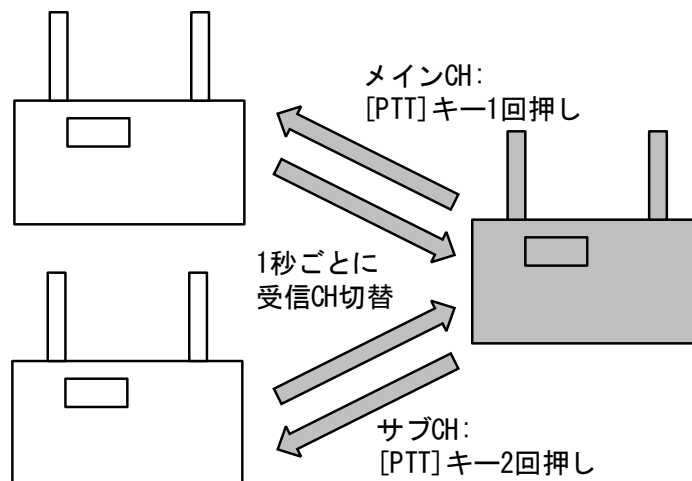
音量を調整する

・ [▽]または[△]キーを押すと音量を 0 ～ 30 までの 31 段階で調整できます。
・ キーを押すごとにプ！とビープ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビープ音よりはるかに大きくなります。
・ [▽]と[△]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ、実際の音量が確認できます。大きなボリュームレベルでの確認時は耳を傷めないようご注意ください。
・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

送信/受信する
信号を受信すると「受」とランプが緑に点灯してスピーカーから相手の声が聞こえます。
[PTT]キーを押したまま、マイクに向かって話します。話し終わったら指を離します。送信中はディスプレイに「送」、ランプが赤に点灯します。セットモードで PTT ホールド機能をオンにすれば指を離しても送信状態を保持するハンズフリー通話ができます。

コールトーン機能
送信中に[▽]キー、[△]キーのいずれか、または両方を押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、
相手に注意喚起することができます。

対応中継器のリモコン変更操作
対応する中継器のチャンネル、グループ番号その他の設定を無線で中継器に送り、設定変更できます。
・チャンネル、グループ番号、「自動接続手順」、「ハングアップタイマー」、「アラーム」をリモコン設定できます。別紙「セットモード詳細説明書」をご参照のうえ、転送したい内容を本機にプログラムします。
・[▽]と[△]キーを同時に 3 秒以上押し続けるとディスプレイに「Snd rmo-ST」が表示され、データ転送を始めます。
・対応中継器の説明書を参照して、中継器をリモコン受信できる状態にします。半複信中継器モードにした DJ-P114R の場合は AC アダプターを抜き挿しします。起動時 10 秒間リモコン受信状態になり「rEmCon」が表示されデータを受信し始めます。
・転送が終わるとディスプレイに「〇〇〇〇〇〇」が表示され、中継子機に戻ります。中継器はリモコンからのデータ転送を受信すると 10 秒以内に完了します。
・途中で止める場合は[PTT]キーを押します。転送をキャンセルして中継子機に戻ります。中継器側には一切の変更は反映されません。

③デュアルオペレーション
交互・交互中継通話モードでメイン/ サブの 2 つのチャンネルを交互に受信、そのどちらとも通話できるモードです。あらかじめ専用メモリーチャンネルにメインとサブチャンネルを登録して使います。
参考： 全員に設定すると、だれがどちらの CH をスキャン中かわからず、通話しにくくなります。この機能は例えば 2 つの通話グループを管理する責任者だけに設定して、その人が必要に応じて通話したいグループを選んで呼び出すようなときのものです。自由に２CH を使えるようにするものではありません。

【設定前のご注意】
・メモリー登録する際は、セットモードの「SET キー割り当て設定」項目を「ACH」、「bCH」にします。
詳しい操作方法や内容は「DJ-P114R セットモード詳細説明書」をご参照ください。
・このモードを使用中、スキャン機能は動作しなくなります。また、登録後に緊急通報を ON に設定するとチャンネルの状態にかかわらず常にメイン側で発報するようになります。
・メイン／サブチャンネルが正しく設定されていないと「------」が表示され、メインとサブが同じチャンネルだとエラーの「E」表示が点滅してデュアルオペレーションは動作しません。必ず別のチャンネルに設定してください。

メイン側/Ａのチャンネルを登録する
・通話モードを交互通話(モード 1)または半複信中継子機(モード 5)にして、FUNC キーを押したまま SET キーを何度か押し、ACH SEt-bt 表示にします。（セットモード項目、SET キー割り当て）初期状態は ACH ですが、ｂCH や EG などが表示されたら△▽キーで ACH にします。PTT キーを押して確定します。

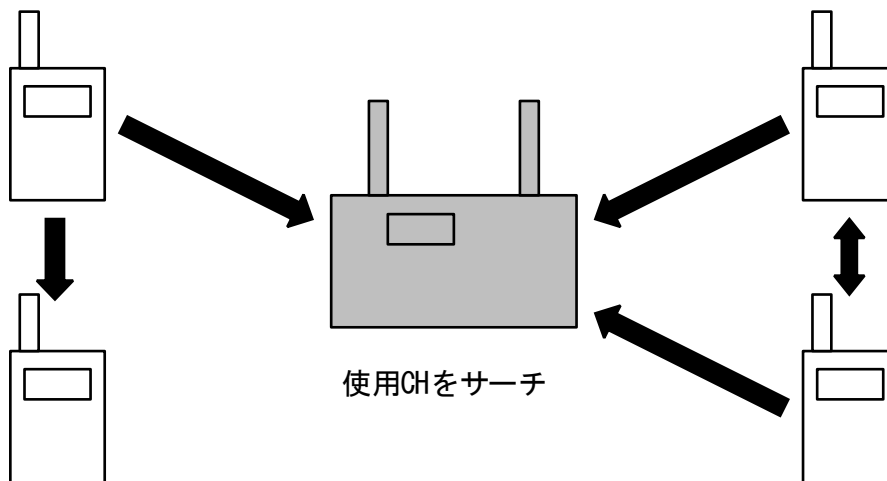
・メインにしたいチャンネルとグループトーク番号を設定します。
・[SET]キーを 3 秒以上押し続けるとディスプレイに「ACH writE」が表示されます。

サブ側/Ｂのチャンネルを登録する
・同じ操作を繰り返して、セットモードの ACH SEt-bt を△▽キーで「bCH」に変更します。
・サブチャンネルの番号とグループトーク番号を設定してから[SET]キーを 3 秒以上押して、「bCH writE」を表示させます。

登録後、通話モードをデュアルオペレーション（モード７）にします。１秒間隔で登録したメインとサブチャンネルのスキャンが始まります。

音量を調整する
・ [▽]または[△]キーを押すと音量を 0 ～ 30 までの 31 段階で調整できます。
・ キーを押すごとにプ！とビープ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビープ音よりはるかに大きくなります。
・ [▽]と[△]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ、実際の音量が確認できます。大きなボリュームレベルでの確認時は耳を傷めないようご注意ください。
・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

通話する
信号を受信するとそのチャンネルでスキャンが止まります。
ディスプレイの 受 が点灯しスピーカーから相手の声が聞こえます。相手の送信が終わって 5 秒以内に別の信号を受信しないとスキャンを再開します。この待機時間はセットモードで変更できます。
・ メイン側チャンネルで送信するときは、通常どおり[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。
・ サブ側チャンネルで送信するときは[PTT]キーを短い間隔で 2 度押して、2 度目で[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。送信中はディスプレイに 送 が点灯します。
いずれも PTT キーを離すと受信に戻り、設定時間（初期値約 5 秒）が過ぎるとスキャンを再開します。

④最適チャンネルサーチ
混信などを避けるため、せっかく設定したトランシーバーのチャンネルをたびたび変えるのは面倒です。この機能は全ての特小無線チャンネルを長時間自動でスキャン（サーチ）して、その CH の使用頻度を表示するものです。前もってどの CH が一番空いているか調べておけば、特に中継システムのように設定項目と台数が多い環境で、余計な設定変更の手間が省けます。

サーチする
通話モードを最適チャンネルサーチ（モード８）に切り替えるか、モード８で AC アダプターを挿して起動すると自動的にチャンネルが 0.5 秒ごとに切り替わり、サーチを始めます。全 47CH を 40 秒弱で一周します。

使用頻度を確認する
・[PTT]キーを 3 秒以上押し続けるとサーチを停止します。サーチ停止中に[SET]キーを押しながら[▽]または[△]キーを押すとチャンネルが変わり、CH 番号の右にサーチ中に信号を受信した回数を表示します。**回数表示が少ない＝混信が少ないチャンネル**です。最大のカウント表示数は 250 で、それ以上は増え

ません。0に戻って再カウントすることはありません。
・PTT を 3 秒長押しするとサーチを再開できますが、前回の結果は初期化されます。記録は残らないのでメモを取るなどしてください。

【参考】
使用場所の営業日と営業時間に合わせて、なるべく多くの回数、なるべく長い時間をかけてサーチします。

・通話する人が一番多く居るエリア、通話したいエリアの中央、中継器を設置する場所など、一番無線システムを実用する場所に本機を置いてサーチするのが基本です。特小無線は微弱電波なので少し場所が変わるだけで混信状態が変わるためです。

・通話エリア内に、離れた複数の多用場所（厨房とホール、レジとバックヤード…）があるときは全部の場所をサーチしてください。片側のエリアだけが混信を多く受けることがないか、確かめるためです。

・周囲に特定トランシーバーを使いそうな場所（スーパーや量販チェーンなど中規模店舗、飲食店、クリニック、ヘアサロン、ケータイショップ、工事現場…）があれば、それらの営業時間、作業時間に合わせてサーチします。時間帯を分けて複数回サーチすればさらに効果的です。

【ご注意】
・窓際や通話エリア内で一番見通しの良い場所に置くと、遠くからの電波を拾いやすくなります。実用エリア内のサーチではカウント数が低くても、目安として「ここは使っている可能性が高いな…」と判断できるので、他にも空いた CH があればそちらを選ぶ方が混信を受ける可能性が低くなります。

・本機能はあくまで目安としてお使いいただくものです。たまたまサーチした日は近所のユーザーの定休日だった、その日だけ近くで工事があった、というようなことは良くあるため、サーチによる空きチャンネル判定の精度は保証できません。

・使用頻度が高いと判定されたチャンネルの上下のチャンネルは、使用頻度が「0」でも実用を始めると混信しやすい可能性があります。
（例：L05 に使用頻度が高い数値が出たら、L04、L06 の頻度が低くても避ける。）

・チャンネル「L01」「b01」「L10」「b12」はメーカーを問わず初期値のチャンネルに設定されがちです。
このため、このまま使うユーザーが非常に多いことから、これらのチャンネルはサーチの結果にかかわらず避けておくことをおすすめします。

・最適チャンネルサーチ中はバッテリーセーブが動作しません。オプションのバッテリーパックご使用の際はバッテリーの消耗にご注意ください。

●その他機能について

①緊急通報
本機を簡易的な緊急通報機器として使用する機能です。トランシーバーとして使用中、アラーム音を鳴らして相手に緊急を通報します。通話モードの交互通話(モード 1)、半複信中継子機（モード 5)、デュアルオペレーション(モード 7)でお使いになれます。デュアルオペレーションでは常にメイン側のチャンネルに発報します。

緊急通報を有効にする
FUNC キーを押したまま SET キーを何度か押し、SEt-bt 項目にします。（セットモード項目、SET キー割り当て）初期状態の表示は ACH SET-bt です。△▽キーを何度か押して EG にして、PTT キーを押して確定します。詳細内容は別紙「DJ-P114R セットモード詳細説明書」をご参照ください。

緊急通報を発報する
・[SET]キーを 3 秒以上押し続けると「EmG-on」が表示されピロピロ…と緊急アラーム音を 10 秒間送信します。信号を受信した相手機もこのアラーム音が鳴ります。
・拡張セットモードの「緊急通報鳴動時間」を変更することでアラーム音の時間を 10～60 秒に変更することができます。

②チャンネルスキャン
自動的に受信チャンネルを切り替えて信号を探す機能です。信号を見つけるとスキャンが止まり、信号がなくなると再開します。本機能は通話モードの交互通話(モード 1)、半複信中継子機(モード 5)でお使いになれます。（それぞれのモードで使えるチャンネル範囲だけをスキャンします。）

チャンネルが空いているエリアでは別の特小ユーザーが近くにいるかどうか、混み合っているエリアでは空いたチャンネルを素早く探すのにお使いください。

チャンネルスキャンを有効にする
FUNC キーを押したまま SET キーを何度か押し、SEt-bt 項目にします。（セットモード項目、SET キー割り当て）初期状態の表示は ACH SET-bt です。△▽キーを何度か押して「Scn」にして、PTT キーを押して確定します。詳細は別紙「DJ-P114R セットモード詳細説明書」をご参照ください。

チャンネルスキャンを開始/停止する
[SET]キーを 3 秒以上押し続けるとスキャンが始まりチャンネルが自動的に切り替わります。信号を見つけるとスキャンは停止して受信を始め、信号がなくなると自動的にスキャンを再開します。スキャンを停止するときは[PTT]キーを押します。(注：受信時間を設定する「タイムスキャン」は採用していません。)

注)・スキャン中はバッテリーセーブが動作しません。オプションのバッテリーパックで運用時に多用すると電池の減りが早くなります。

以上

アルインコ（株）電子事業部